

教えて！ 行方市フォント

行方市は、市制施行 20 周年記念事業として、行方市らしさを表す「行方市フォント」を決める取り組み『行方市フォントプロジェクト』を、フォントメーカーである株式会社モリサワと協力して、実施しました。

皆さんに愛される「行方市フォント」を目指して、制定までのストーリーをご紹介します。



株式会社モリサワ
マーケティング統括部
インサイドセールス課
縄田 萌 さん



行方市
企画部魅力発信課
シティプロモーショングループ
藤田 彩海

#1 「行方市フォントプロジェクト」のはじまり

1 そもそも、フォントって何？

フォントとか書体って、どういう意味？



「書体」とは、共通した表情を持つ文字の集まり、

「フォント」は、現在ではデジタル化した書体のことを指します。

行方さつまいも日和（書体名：毎日新聞明朝）

行方さつまいも日和（書体名：たらふく）

行方さつまいも日和（書体名：史仙堂楷書体）

明朝体、ゴシック体といった言葉を耳にしたことはありますか？

新聞記事では明朝体、スマートフォンではゴシック体がよく使われています。

同じ言葉でも書体が変わると、受ける印象も変わります。

右上に書かれた「行方さつまいも日和」、全て同じ言葉ですが、それぞれ書体を変えてみました。

一番上は毎日新聞明朝という書体で、新聞でよく使われているフォントです。安定感や信頼性が感じられるのではないのでしょうか。

たらふくという書体は、サツマイモのホクホク感にピッタリだと思って選んでみました。史仙堂楷書体は、実際の筆耕士の筆文字をフォント化したもので、賞状などでよく使われます。伝統的な信頼感のある印象を与えます。

2 行方市フォントって何？

行方市の書体（フォント）って、どういうこと？



市制施行 20 周年を記念して、

「行方市らしさ」を表すフォントを決めました。

行方市は、令和 7 年 9 月に市制施行 20 周年を迎えました。

記念グッズやロゴマークといった一過性のものではなく、ずっと使い続けることのできるものを作りたいと思っていたところ「行方市の魅力を表す『書体（フォント）』を決めよう！」というアイデアが出ました。

フォントは、文字として長い期間残っていくものです。行方市らしさを表す象徴として、未来に残り続けるフォントを決めました。

決定までには、こんな過程がありました

市職員に向けたワークショップを開催

「行方市らしさ」を見つけ、候補の 4 書体を選定！

小学生に向けたワークショップを開催

「行方市さん」ってどんな人？行方市フォント模擬投票

中学生による投票で決定

ついに決定！「行方市フォント」はどのフォントに？



決定した行方市フォントがこちらです！

行方市なめがた NAMEGATA



行方市フォントには、解ミン 宙というフォントが選ばれました。

「解ミン 宙」は、明朝体の気品と、手書きのような優しさ・ぬくもりを兼ね備えたフォントです。

書体に込められたテーマ（行方市らしさ）は、「自然と調和するまち / 自然の豊かさで共存するまち」。

行方市の持つ豊かな自然のイメージにピッタリな書体選ばれましたね。



ベースとなった解ミン 宙というフォントは、一般にも広く普及しているフォントです。

東京や他の県へ出かけたときに、街中の看板や本、テレビのテロップなどで、ふとこの文字を見かける機会があるかもしれません。

その時に、「あ、この文字、私の地元・行方市のフォントだ！」「中学校のときに、みんなで投票して選んだ文字だ！」と気づいて、一瞬でも行方市に思いを寄せるきっかけになってほしい、そんな思いを込めて行方市フォントを制定しました。



今回は、制定までの過程を深掘りしていきます。